

喜界島 サンゴの島の暮 らし発見 プロジェクト

モデル事業その後

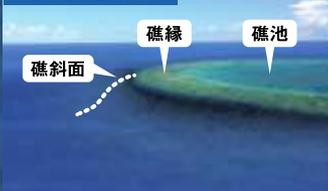
特定非営利活動法人
喜界島サンゴ礁科学研究所



喜界島は世界有数の サンゴ礁研究のフィールドです。

喜界島は、過去10万年間で年間約2ミリメートルという地質学的に非常に早い速度で隆起をし続けている隆起サンゴ礁でできた島です。これは、世界的に見てもバルバドスやパプアニューギニアと並ぶ希少な存在です。海洋・気候に対するサンゴ礁生態系の応答を陸上で詳細に観察できる場所は、他に例を見ません。

6万年前(想像図)



現在



地殻変動により海底が隆起し、浅場となった所にサンゴが住みつき、サンゴ礁を形成したのが喜界島の始まりです。その後、さらに隆起して、海の中にあったサンゴ礁が島になりました。それから10万年間、隆起するたびに島の周りにサンゴ礁が広がり、また隆起する…というのを繰り返して現在の喜界島の形になりました。

荒木集落沖の巨大ハマサンゴ 445歳！！
(1578年～)



サンゴの暮らし発見プロジェクトの目的

- ① 「サンゴ礁文化」を再認識する
- ② 「サンゴ礁文化」をわかりやすい形で活用できるようにする
- ③ 「サンゴ礁文化」の活用から「地域活性化」「伝承文化継承」
- ④ 「サンゴ礁の保全」に結びつく地域の活動の展開を目指す



喜界島の サンゴ礁文化ってなに？

喜界島の人々は古くからサンゴの化石を石材として利用してきました。
暮らしの中にはサンゴが根付き、
神様として祀られているサンゴの化石もあります。
また、隆起サンゴ礁の地形は、独自の漁や習慣を生み出しました。

だから陸の上に
サンゴの化石が
たくさんあるんだね！

それは、サンゴ礁からの恵を
受けた「サンゴ礁文化」です。



喜界島でよく見られる

サンゴ礁文化



サンゴの石垣

集落のサンゴの石垣は、サンゴの化石を積み上げ、作られています。早町地区に多くの石垣が残されており、中にはきれいに成形された石を使った石垣もあります。どんな形や種類のサンゴが使われているかじっくり観察してみてください。

田芋などを洗う鉢

鉢の底には水を抜くための穴が開けてあります。さつまいもと水を入れて足で洗ったそうなんです。ハマサンゴの化石を丸々くりぬいて作られています。使われなくなると植木鉢にされていたりします。



でも、サンゴって
なんだろう？



「サンゴの石垣」



サンゴの化石が御神体
「ビンドゥン様」



「フムラー」サンゴをくりぬいて作った芋洗い鉢

・プロジェクトの経過

2016	・環境省サンゴ礁生態系保全行動計画モデル事業開始 ・島内4集落でサンゴ礁文化の掘り起こし調査実施
2017	・集落においてサンゴ礁文化ワークショップ開催 ・喜界島民の石垣島白保集落サンゴ礁文化視察
2018	・塩道集落において早町小学校5年生による石垣修復活動実施
2019	・阿伝集落(国立公園範囲内)で早町小学校5年生による石垣修復活動実施
2020	・阿伝集落 阿伝サンゴの石垣保存会発足 ・荒木集落 荒木もりあげ隊結成
2021	・サンゴ礁文化フォーラム開催
-----モデル事業終了-----	
2021	・観光庁 地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業採択 荒木集落と阿伝集落におけるサンゴ礁文化を保存活用するツアー開発と実証ツアーの実施
2022	・鹿児島県 令和4年度持続可能な循環型モデル支援事業採択 喜界島荒木集落でのイベント開催と沖永良部島におけるサンゴ礁文化のワークショップ開催 ☆環境省グッドライフアワードの10周年記念ロングライフ賞受賞！
2023	・荒木集落でサンゴ礁文化をキーコンテンツとした「ガジュマル市」の開催 ・喜界島みらい会議発足



ーサンゴの島の暮らし発見プロジェクトー

小学校の授業として地域の石積み保存会と石垣修復体験



奄美新聞
2019年10月13日

南海日日新聞
2019年10月13日

伝統の「サンゴ石垣」継承へ、住民ら修復法学ぶ 鹿児島・喜界島

社会 | 読者 | 鹿児島

毎日新聞 2022/11/14 13:31 (最終更新 11/14 13:36) 有料記事 950文字



サンゴ石の石垣整備を体験する受講生ら＝鹿児島県鹿児島市喜界町荒木で2022年10月8日、喜界島サンゴ礁科学研究所提供

鹿児島県の喜界島（喜界町）でよく見られる伝統のサンゴ石垣に暗雲が垂れこめている。空き家が増え、専門の石工が不在となったためだ。風化したサンゴの化石が無数に積み上げられた集落は、島の原風景でもある。先人からの伝統を守るため、地域ぐるみで維持や継承に向けた取り組みが進んでいる。

奄美群島の最北東に位置する喜界島。海岸には大きめのサンゴ石（化石化したサンゴ）が多く漂着し、昔から盛んに石垣に利用されてきた。特に阿伝（あでん）地区では、集落の細い路地の両側にサンゴの石垣が並び、南島の情趣を醸し出している。

喜界町によると、少子化などで町内の空き家率は10%に達し、かつてはどこ

素早いブラウジング体験を Google がお届けします



今すぐダウンロード

あなたにおすすめ

ウクライナに陥る大量の地雷 過半数で撤去され、除去に数十年

2/17 7:00



バイデン氏、中国気候学歴の正当性を主張 習氏と協議の意向示す

2/17 9:59



初月99円!! 全ての有料記事とウォール・ストリート・ジャーナルが読み放題【毎日新聞デジタル】

毎日新聞 2022/11/14

■モデル事業を通じて地域が得たもの

モデル事業の目的「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」

○島民

- ・島の文化の独自性、希少性の気づき
- ・郷土の誇りの醸成
- ・海からの生態系サービスの再認識
- ・海への関心の向上

○行政

- ・計画や施策の一部の実現
- ・島の新たな観光資源としての活用
- ・独自性の確立と高付加価値化
- ・地元教育の教材
- ・ジオパークにおけるジオ資源

○集落

- ・集落の課題解決 → 小学校統廃合によるコミュニケーション減少
- 方言や習慣の衰退
- 伝承の断絶
- サンゴの石垣維持の担い手不足
- ・集落ツアーの開催などによる新たな価値の創出
- ・サンゴ礁文化を通じた交流機会の増加
- ・活動主体の組織化

キーコンテンツ「サンゴ礁文化」

- ・モデル事業の目的は達成し、更なる効果をもたらす
- ・地域の課題解決、地域づくり、観光資源活用において有効な手段



— 環境省グッドライフアワード —
Good Life Award

環境と社会を良くする取組を表彰します

プロジェクトの取組を含めた活動が、SDGsを体現する取組を表彰する「環境省グッドライフアワード」で10周年特別賞ロングライフ賞を受賞。持続可能な社会の実現に資する活動として評価を受ける。



この活動を通じて目指すもの

地球環境と人間社会



地球環境の変動

台風の増大 気温上昇
モンスーン・降水量の変化
地震・津波などの災害

社会の変化

食糧危機 経済発展
感染症 人口増加
グローバルゼーション

どのように
干渉しているか？



社会が将来の気候変動に適応し、持続可能な発展をするための知恵

みんなで手を取り合う必要

持続可能な喜界島の実現

サンゴの石垣

ウフミ

イザリ

フムラー



追い込み漁

ハマサンゴの化石でできたお墓

八月踊り

などなど・・・



集落あるき

一緒に未来を考える場に！

2023年喜界島みらい会議発足

喜界町役場&サンゴ礁科学研究所

情報共有

協働

エコツアーガイド

地域での活動

集落

学術機関

小中高等
教育機関

行政機関

